

木とキノコの関係

秋はキノコの季節です。キノコは漢字では「木の子」と書きます。
キノコは木の子供なのです。木とキノコは共生関係にあります。

松茸はアカマツの根本にしか生えません。またマイタケはミズナラの根本にのみ生えます。

松茸は赤松の木の根の細根(さいこん)と言われる細い根っこに
菌糸を延ばして成長していきます。

赤松の減少や日本における山間部の自然環境が年々変化して
いくため、国産の松茸が育たなくなっています。
松茸は赤松があれば生えているということでもないのです。

生えている場所にはちゃんと、松茸ならではの条件があります。

その4つの条件とは



条件1: 時間帯……松茸狩りは、早朝がおすすめです。枯葉が露で湿っているので松茸を発見しやすい！
条件2: 3つの良い……日当たりが良い、水はけが良い、風通しが良いなど3つの良い条件がそろっていて

雑菌の臭いがしないところが生えているポイント率が高いです。

条件3: 松茸の縄張り……松茸はキノコなので菌で繁殖します。菌の活動範囲は直径2メートル。
1本見つけることができたら、その周辺にまだ生えている可能性が大です！

目を凝らして松茸の縄張りをチェック！

条件4: 山の地形……山の峰沿い 山の斜面に生えていることが多い松茸。
→西→東→北 と峰や斜面を順番に周ってみましょう。松茸は習性として南東の向きに生えてきます。



ブナの森でキノコの王様と言えば、ミズナラの大木の根元に生える
マイタケです。

味も香りも良くお金になるので、山のプロが採るキノコの代表です。
これに当たると、舞い踊って喜ぶことから「舞茸」になったと言われ
ます。

きのこ採りのプロでさえ、マイタケだけは別格で「見つけた」とは言
わずに「当たった」というそうです。

マイタケが生えるミズナラは、標高が余り高くなく、日当たりの良い
脇尾根筋～急斜面の崖地に生えることが多いのです。

「標高400m～800mを主体」に、山を立体的に歩き、どんな場所に
どんな樹木が生えているのかを体で学ぶことが、マイタケ採り
の第一歩です。